代々木進学ゼミナール教育ニュース
YOYOGI SHINGAKU SEMINAR EDUCATION NEWS
代進 教育ニュース vol.41
http://www.yoshin-zemi.com

オープンキャンパス2011
「早稲田一色に染まる日。」
全学部対象　8月6日(土)・7日(日)
全日程9:00～17:00　事前予約不要・入退場自由
場所：早稲田キャンパス / 西早稲田キャンパス
内容　学部説明/模擬講義/個別相談/早大生との相談コーナー/キャンパスツアー/応援部アトラクション/入試資料配付など
早稲田大学入学センター http://www.waseda.jp　TEL:03-3203-4331

2011 教育対談 学長対談シリーズ第24回

早稲田大学第14代総長奥島孝康先生のご提案で始まった本誌学長対談シリーズ。初回の2005年に奥島先生、2007年には前総長の白井克彦先生、そして2011年、第16代総長の鎌田薫先生と対談をさせて頂きました。3代に亘る総長先生方との対談を通して、読者の皆様にはここ数年間の早稲田大学の様子が本誌を通して明らかになることでしょう。

ご列席者（敬称略）
- 鎌田（かまた） 薫（かおる）……（早稲田大学総長）
- 青葉 由香……（塾生母親代表）
- 菅原 直美……（塾生母親代表）
- 嶋田 弘尊……（代進グループ代表）
- 和田 賢一……（代進グループ教務部）
- 松本 無双……（代進グループ教務部）

3・11以降

嶋田　鎌田先生は昨年11月に総長に就任されました。12月には「国力の回復は大学から」と宣言されていますが、その後今年3月11日には東日本大震災が起こり、先生の言葉の重みが一層増しているように思われます。この点について、現在のお考えを是非お聴かせ下さい。

鎌田　はい。今現在の日本の状況に限って見てみますと、政治経済の状況が非常に不安定で、国際社会での地位の低下が懸念されております。これまでは民間企業が国際社会のトップリーダーとしてたいへんな勢いで走ってきましたが、国際的、政治的、経済的、社会的な勢力地図がかなり変わってきていますよね。今後も日本の少子高齢化、新興諸国の急速な発展等により大きな変化がもたらされるでしょう。日本はどんな方向に向かって行けば良いのか分からなくなってきている。政治もかなり混迷しています。

そのような中にあっても大学は社会の在り方などをあまり目先の利益にとらわれることなく考え続けています。

ですから、これまでの大学の知能の集積の中から、これから日本はどのような方向に向かって行けば良いのか考え、もっともっと積極的に方向性を提示していくべきであろうというのがまず一つですね。

それから、日本には資源がないわけですから、これまでも科学技術立国というものを目指してきたし、これからも新しい分野での科学技術の発展が必要であろうというのが二つ目です。さらに、わが国唯一の豊かな資源は優秀な人材ですから、人材の育成もしなければならない。

これら「科学技術立国」「教育立国」については、まさに大学が中心になってやっていくべきであろうということから、「国力の回復は大学から」というようなことを言わせて頂いたわけです。3・11以降これがますます喫緊の課題になってきたのではないかと思います。

早稲田大学総長　鎌田（かまた） 薫（かおる）

鎌田　薫　プロフィール

第16代早稲田大学総長。1970年早稲田大学法学部卒業。72年同大学院法学研究科修士課程修了。75年同大学院法学研究科博士課程単位取得退学。83年法学部教授。90年法学部学生担当教務主任。2005年同大学院法務研究科長。2010年より現職。専門は民法、不動産法、フランス法。法制審議会民法(債権関係)部会部会長、国土交通省土地鑑定委員会委員長のほか、日本土地法学会理事、日仏法学会理事、金融法学会理事などを歴任。

早稲田が求める学生像

嶋田　なるほど。菅原さんは小5の女の子と中2の男の子をお持ちの塾生のお母様でいらっしゃいますが、何か先生へのご質問はありますか。

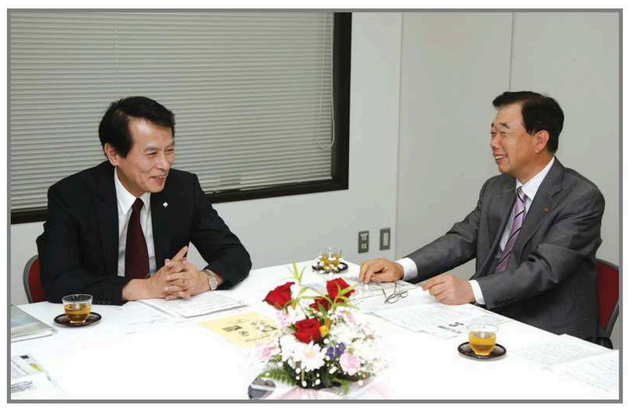
菅原　はい。これから早稲田大学に進学を考える者に先生が望まれることは何でしょうか。

鎌田　そうですね。早稲田は「グローバルリーダーの養成」を目指しております。これからの若者たちが活躍する舞台は日本国内にとどまらないというのは厳然たる事実ですから、まずは国際的に通用する人材、リーダーシップのある人材を養成したいということですね。これは何も早稲田に限ったことではないと思います。グローバル化と言いますと語学力・国際感覚ということが強調されるわけですが、それだけではなく国際社会で対等にやっていくためには議論する力が必要になります。そのためには、専門的な知識を持っているだけではなく、幅の広い教養を身につけなければなりません。いまの社会に起きる問題というのは、これまで誰も経験したことのないものが多いわけですから、単に知識を持っているだけでは駄目で、論理的な思考力、解決の糸口を見つけるために人と議論する能力、プレゼンテーション能力、マネージメント能力といったものが必要になります。

これらの能力を大学で身につけてもらいたいと思っていますが、そのためには初等・中等教育の段階で足腰をしっかり鍛えておく必要があります。受験勉強については賛否両論あるとは思いますが、やはり受験に向けて一生懸命勉強した方々は、例えば英語の単語力についても他の様々な知識についてもしっかりとしたものをお持ちの方が多いわけですから、きちんと勉強を積むのと同時に、机上の学修に留まらない、幅の広い読書やいろいろな経験をして大学に来て頂きたいですね。そういったものの量や質によって大学での伸びもかなり違ってくると思います。

教務部　和田

生徒母親代表　青葉さん



教務部　松本

代進グループ代表　嶋田　弘尊

いまの早大生

和田　私も20年ほど前は早稲田の学生として法学部で先生の講義を受けておりました。

張りつめた空気の中で理路整然とした先生の講義がいまだによみがえってくるのですが、あの頃の早稲田の学生と今の早稲田の学生はどこが違うのでしょうか。

鎌田　変わった点のひとつは「まじめになった」ということでしょうか。授業への出席率も非常によくなりました。昔は教室の勉強だけが全てではないという意識があり、その反面、大学の教科以外のところでは誰にも負けないというものを持った学生が早稲田には特に多かったのですが、最近はそうではありませんね。きまったことはきちんとやるけれども、それ以外のことへのチャレンジ精神は少

裏面へ続く

生徒母親代表　菅原さん

合宿テーマ「極める!!」
夏期合宿
参加者募集!!
対象:小4～高3
定員:600名（先着申込順）
日程・場所
❶ 8/5～10　長野県野沢温泉村
❷ 8/14～19　長野県筑北村・麻績村
❸ 8/15～20　長野県野沢温泉村
❹ 8/21～26　長野県筑北村・麻績村
1日10時間の学習・自然体験・集団生活
代進グループ屈指のスタッフが授業を担当!
潜在能力の開花・夏の思い出・他の子と競争
お問い合せ・ご予約は各校まで

創立33年の伝統
ヤッタ感残る感動一夏!!
33年の塾歴賭ける総力戦
（都立絶対合格特訓他）
来春ますます難しくなる！
都立県立絶対合格！
内申・評定UP対策
代進ゼミ夏期講習
学習進学個別カウンセリング 実施!!
※電話でご予約下さい。
夏期講習日程
Ⅰ期:7/21～7/27（6日間）
Ⅱ期:7/28～8/3（6日間）
Ⅲ期:8/5～8/10（6日間）
Ⅳ期:8/14～8/19（6日間）
http://www.yoshin-zemi.com
代々木進学ゼミナール
お問い合せ
（本部）TEL.042-544-5499（代）
小・中・高生 個別指導 代進パーソナル
都立中高一貫校&都立高校対策専門
都立代進ゼミ
授業内容・授業時間・費用等 都立高校合格のために徹底的に研究しました。
クラス指導と個別指導を自由に選べる
代進ハイブリッド
集団授業 クラス授業のメリット「仲間と競い合える!」
個別授業 個別指導のメリット「1人1人に完全対応」
クラスと個別の長所を併せ持った塾の進化形。
21世紀型
代進エース

し弱くなったように感じます。これは早稲田に限らず、日本中の若者について見られる傾向だと思います。

私の専門は法律学なので法学部について申し上げると、法科大学院が設置されたことが法学部の教育のあり方を大分変えたということは言えるでしょう。学生たちは、小中高校段階での受験勉強などの課程で出来上がった、効率的にまとまった知識を覚えてしまうという勉強の仕方からなかなか抜け出せないようです。法律学というのはもともと正解のない学問です。ひとつの問題について、Aという答えもあればBという答えもありCという答えもあるというように。そして本来、どの答えが良いのかということよりも、どういう考え方をして結論を導くべきなのかということをじっくり考察することが法律学の勉強なのです。ところが学生たちはそうではなく効率良くすぐに正解を知りたがります。法科大学院を受験し、合格するにはどの答えがいいのかということを効率よく整理して覚えてしまおうというのが、学部で法律を学ぶ学生の姿勢になってしまっている。だから教室の雰囲気も大分変わりました。それより先の「どういう考え方をしていくべきなのか」という部分については法科大学院に入ってからでいいだろうというような空気が流れています。ですから、学部の授業や教科書も以前に比べると学生にとってはだいぶ分かりやすいものが増えましたね。

これからの就職

嶋田　高校生と大学生、お二人のお嬢さんをお持ちの青葉さん、いかがですか。

青葉　はい。私のところは、上の娘がいま早稲田の文化構想学部の2年に在籍しております。そろそろ就職についても考え始めているところなのですが、就職に向けてすぐれた人材になるために学生である間に特に心がけるべきことは何でしょうか。

鎌田　先ほども申し上げたように早稲田はグローバル対応のできる人間、リーダーシップのある人間を作りたいと考えております。そのためには、幅広い教養と深い専門的知識、それから豊かな人間力といった素質が求められます。さらに、単なる知識の集積ではなく、自分自身で考える力、問題解決能力を身につけて頂きたい。

それぞれの学部の学生諸君には、自分の所属する学部での勉強をまずはしっかりやって頂きたいですね。学部での授業以外に早稲田では学部の垣根を越えて学ぶことのできる「オープン教育科目」というものが3千以上あります。

早稲田は昔に比べると学生に対して本当に親切になっていますし、学習支援でも研究面でもサークル活動でも、こんなに幅広く何でも揃っている大学は他にないと思います。ですから、自分が本当にこれをやりたいという意欲を持てば早稲田は何でも出来る大学です。反面、自分が動かないと何もないままに卒業してしまうことになるので、自分のしたいことを早く見つけて能動的に動いて頂きたいと思います。

松本　数年前には就職氷河期ということも言われ、昨今では大卒であってもなかなか就職が難しい状況が続いていると思うのですが、このような状況について先生はどのようにお考えでしょうか。

鎌田　早稲田についていえば、去年よりも今年の方が就職率は良くなっているので、特に差し迫って大きな問題になっているわけではありません。近頃の就職難というのは、就職しないと食べていけないという戦後の就職難とは違い、自分がつきたい職種でなければ就職浪人をしてまた受け直す学生も多く、就職率の数字自体が低くなっていることから騒がれている面もあろうかと思います。早稲田についても求人自体は就職希望者の倍くらいは来ていると思いますが、そのようなミスマッチが様々なところで起きていることが予想されます。

早稲田では多くの留学生が学んでおり、外国に行かなくても様々な国の人々と交流したり議論したりする場がありますが、就職に関しては留学生の方が先に内定が決まっていくことも多いです。たとえば中国からの留学生で、中国語と日本語と英語がこなせるということであれば、日本人で日本語しか話せない人と比べると、企業側から見て即戦力になるのは当然前者になるでしょう。今時の日本企業でも、トップ企業になればなるほど日本人を優先して採ろうなどということは全く考えていませんから、1000人採用するうち700～800人は外国人でも良いということもあり得る時代です。就職に際してはそれらの外国人と比較されるわけですから、日本人はしっかりしなければなりません。面接においても、外国人がどんどん自分の意見を述べるのに対して、日本人は何となくもじもじしているというのでは勝ち目はありません。

多くの企業が国際社会で活躍できる人間を求めてくることに対応して、早稲田でもかなり早い時期から、国際社会に対応できるグローバルな視野を持ちリーダーシップを発揮できる人間を育成しようとしているのです。

合宿で得られるもの

嶋田　本誌の学長対談シリーズで早稲田大学の総長先生との対談は今回で3回目になります。2007年には前総長の白井克彦先生、2005年には奥島孝康先生にお話しを伺いました。そもそも、この学長対談シリーズは奥島先生のご提案でスタートしているのですが、その奥島先生からは日本の子どもたちを取り巻く教育の状況とそれへの対応について様々なヒントを頂きました。

和田　そうですね。その中には欧米の国々における長期合宿のお話しがありました。私どもでは12年前から夏に5泊6日のサマースクールを行っております。ところがフランスなどでは40日、アメリカでも中流以上のご家庭では1ヶ月位は子どもたちが親元から離れて他人との共同生活をすることは当たり前になっているというのです。共同生活を通して他人の痛みを知る経験は非常に重要だとおっしゃるのです。

先ほど先生のお話しに「人間力」ということが出てきましたが、私どもは塾ですが、これからの子どもたちの教育を考える上で単に受験のための勉強を教えるだけではいけないと考えております。先ほど就職についてのお話しもありましたが、キャリア教育を含め、就職できる人間、他人とコミュニケーションを上手にとって協調性を発揮できる人間を育てたいと考えております。そのために今年から、企画力や忍耐力など32の力を養成する「個別指導　都立32」というコースもスタートさせました。また合宿については、今では春と冬にも行っておりますが、4箇所に分かれて行う今年の夏期合宿では、最大で18日間参加することが可能になりました。昨年は500名以上が参加し、今年も600名の参加を予定しております。

於:大隈会館にて

先生はこのような合宿についてどのようにお考えですか。

鎌田　もう40年ほど前になりますが、私がまだ助手の頃に法学部の法職課程教室の学生の皆さんと一緒に勉強合宿というのをやったんですね。一週間、朝9時から夜12時まで、ひたすら勉強するという過酷なものでした。彼らはもう還暦を迎えようというという年齢ですが、今でも事あるごとに集まって食事をしております。一生つきあえる友人を得ることができるという意味でも合宿は非常に魅力のあるものだと思います。

早稲田には、世界じゅうの様々な国から留学生が4500人ほど来ております。大学の寮で生活をしている学生たちは、留学生と日本人の人数が半々という環境で共同生活をしています。そこでは海外に行かなくても外国人とのコミュニケーション能力を養うことができるのです。また、早稲田の中学・高校などの附属高でも寮生活をしている生徒が大勢おりますが、親御さんの中には自宅から通えるところに住んでいるにもかかわらず、地方出身の生徒と一緒に共同生活をさせたいということで子どもさんを寮に入れる方も多くいらっしゃるようです。集団の中で生活する機会が少なくなってしまった日本の子どもたちの現状を考えると、合宿のような共同生活から学ぶことは非常に多く、とても貴重な経験になると思います。

学校を知ろう

松本　私どもでは塾として子どもたちに勉強を教えるだけではなく、「人間力」を養成するため、長期の合宿のほかに年間数回、都立高校や私立高校を1日お借りして塾生数百人が参加して勉強する日帰りの「キャンプ」というものも昨年から始めました。また、理科実験教室や自然体験・農業体験というものも行っております。

さらに、生徒だけではなく保護者の皆様を対象に子育てなどについて学んで頂く「ソーシャル・カレッジ」（保護者大学）もすでに22回を数えます。これまで早稲田大学からは奥島孝康氏、中沢弘氏、加藤諦三氏、橋本周司氏、石堂常世氏、白木三秀氏、横山将義氏の各先生方にお話しをして頂いております。

和田　そのような取り組みの他に「大入試フェア」という私立中学・高校、都立高校、国公私立大学の入試相談会を同日開催する催しも立川グランドホテルでこの6月に行っております。中学・高校の相談会は24回目、大学の相談会は11回目となりました。今年は新しい試みとして、中学・高校・大学の相談ブースを同じ部屋に設けて約140校との入試相談を2000名ほどの来場者の皆様に受けて頂きました。このような催しについて先生はどうお感じになりますか。

鎌田　面白い試みだと思いますね。大学を含めて様々な学校の最新の情報を得て、親子で共通の認識を持つということは非常に大事なことだと思いますね。お父様、お母様の若い頃と今では学校の様子も大分違っているのが普通ですからね。早稲田大学についても是非オープンキャンパスなどに参加されて、いまの早稲田を感じ取ったうえで入学して頂ければと思います。

嶋田　本日はお忙しい中、ありがとうございました。

■代々木進学ゼミナール　■都立代進ゼミ　■代進エース　■代進パーソナル　■代進ハイブリッド
お問い合わせ・お申し込みはお近くの校舎まで　〈ホームページ〉http://www.yoshin-zemi.com

※代進グループの各校舎はすべて「代々木進学ゼミナール」の本部直営です。※当塾では、電話によるしつこい勧誘はいっさい行っておりません。　※代々木個別指導○○と名乗る団体とは一切関わりはございません。